



GUNBOH

群

萌

第224号 2026年1月30日

発行所 全国化学労働組合総連合
〒105-0021 東京都港区東新橋2-16-1
ルーシスビル402号室
TEL 03 (6452) 8806
FAX 03 (6452) 8807
発行責任者 瓜生 泰則
編集者 化学総連事務局
info@kagaku-s.com



会長挨拶

“政策活動と組織力強化を軸に、 挑戦と飛躍の一年を目指して”

全国化学労働組合総連合 会長 瓜生 泰則



新年あけましておめでとうございます。皆さまが健やかに新しい年を迎えられたことを心よりお喜び申し上げます。日頃より化学総連の活動に深いご理解と温かなご協力をいただき、心から感謝いたします。

昨年、2025年を振り返りますと、日本経済では少子高齢化の進行や人手不足、さらに物価上昇が続いた影響を、私たち一人ひとりが身近な暮らしの中で実感した一年だったのではないのでしょうか。特に食品やエネルギーなど、日常生活に欠かせない分野で価格の上昇が続き、家計に大きな負担を感じた方も多かったと思います。また、企業においてもコスト削減や生産性向上が求められる中、私たち労働者への期待や負担が増す状況にあり、皆さまの労働や労働環境を守ることの重要性を改めて感じる年でもありました。

私たちの基盤である化学産業では、AIやDX（デジタルトランスフォーメーション）の進展、GX（グリーントランスフォーメーション）の推進、半導体分野の急成長、石油化学産業の再編など、大きな変革期を迎えています。加えて、カーボンニュートラル、資源循環、海洋プラスチック問題への取り組みといった課題にも、社会基盤を支える産業として先進的に対応することが求められています。変化が激しい時代に対応し、組合員が安心して働ける職場環境を整え、化学産業を未来に誇れる産業として発展させるため、化学総連は今後もその責務を果たしていく必要があります。

一方、化学総連では「誰からも支持される産別組織」を目指し、学びと行動を重ねた一年でした。幹部研修会や支部役員研修会では、サイバーセキュリティや海洋プラスチック問題、働き方改革など、未来を見据えたテーマに取り組み、役員同士の絆を深めました。政策面では、税制改正やエネルギー戦略、人材育成に関する要望を国政や関係機関へ提言し、現場の声を国政に届ける活動を継続しました。さらに、地域貢献やボランティア活動、幸福度診断、安全研修など、組合員が誇りを持てる取り組みを展開しました。こうした活動は、皆さまの協力と情熱があってこそ成し得た成果です。2026年も、変化に挑みながら、産業の持続的発展と働く人の幸せを支える組織であり続けます。

2026年度を迎えるにあたって、本年度は活動方針の中間年に位置付けられ、組織の継続的発展と運営効率化を進める重要な年となります。そこで、下記の内容を中心に取り組んでまいります。

○委員会再編と組織力強化

これまでの委員会構成を見直し、「産業政策委員会」と「労働政策委員会」という二本柱へ再編しました。産業政策委員会はエネルギー政策や環境問題を広く取り組み、半導体や医薬品分野の将来動向にも注視していきます。一方、労働政策委員会では、安全管理、多様な働き方の推進、人材育成を包括的に扱い、活動を展開していきます。

○運営体制の効率化と内部運営委員会の設置

従来の事務局業務が1名体制となることから、業務の可視化と効率化を目指し、内部運営委員会を設置しました。これにより、各種イベントの企画運営や機関誌の発行などを一元的に行い、業務の質を維持しつつ効率と効果を高める運営を進めますので、各単組のご協力をお願いいたします。

○組織の将来構想を検討する「組織検討委員会」の活動

2027年度以降、より強い組織運営体制を目指し、現行の課題と向き合いながら、持続可能な組織のあり方や運営の方向性について検討を進めます。

○社会貢献活動の継続と展開

次世代に誇れる産業と地域社会への貢献は、私たちに課された責務です。これまで取り組んできた海岸清掃や植林活動、社会福祉カンパ、災害義援金活動を引き続き行いながら、海洋プラスチック問題など環境問題を意識し、幸福度を高めるとともに、連携団体と協力関係を深めた活動を展開していきます。

2026年は「丙午（ひのえうま）」の年です。「丙午」は勢いとエネルギーに満ちた挑戦の象徴であり、未来を前向きに切り拓いていく力を与えてくれる年でもあります。このような年こそ、私たちは日々の課題に正面から向き合い、持てる力を結集して取り組んでいきたいと思えます。環境変化が著しい今こそ、一人ひとりがしなやかに、そして力強く行動することで、さらに飛躍できる一年になるよう力を合わせていきたいです。

私たち化学総連の活動は、すべて「学び」と「連携」から生まれます。政策活動においても、単組支援においても、個々が学びを深め、持続可能な組織を共に作り上げていくことが重要です。一步を踏み出し、皆さま一人ひとりが議論と対話を通じて新たな価値を創造していただくことで、化学産業全体の発展にもつながるでしょう。2026年が皆さまにとって明るい未来を切り開く希望の一年となりますよう、心よりお祈り申し上げます。そして本年も、変わらぬご支援とご指導を何卒よろしくお願い申し上げます。

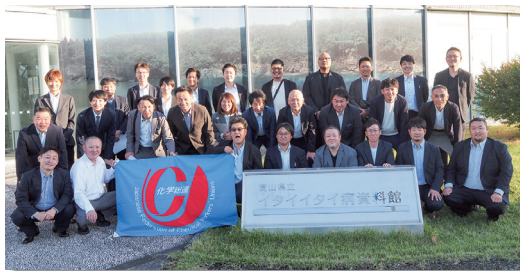
化学総連活動報告

[2026年度 第1回全国地連代表者会議]

今年度の第1回目となる全国地連代表者会議をイタイタイ病資料館の見学を含め富山県富山市にて開催しました。

最初に日本四大公害病の1つであり、環境汚染による痛ましい歴史を後世に伝えるイタイタイ病資料館を訪問しました。林副館長より施設概要についてご説明いただいた後、館内を見学しました。館内では被害者の生活用具や医療記録、当時の写真など資料が展示され、カドミウム汚染による深刻な健康被害の実態を学べる場となっていました。また、イタイタイ病の語り部として活動される柞山氏に当時の様子をお伺いする機会をいただき、環境保護の重要性を再認識することができました。参加者は当時の鉱山操業や治水工事の記録、行政資料などを通じて、地域社会と産業活動の関係を理解でき、化学産業で働く一員として痛ましい歴史が繰り返されないよう、我々は責任を持った行動を取りたいとの声も聞かれました。

会議では、前半に地連活動強化委員会の山本委員長のご挨拶後、安福事務局長より共有事項説明を行いました。後半は、昨年度の各地連における取り組み事例の紹介や各グループに分かれて分科会を実施しました。昨年度の地連活動の情報共有や地域貢献活動の具体的計画等について活発な議論が行われ、ご紹介いただいた各地連の事例紹介は今後参考にしたいとの声もありました。各グループに分かれて発表された内容は、すべての地連代表幹事へ既に共有しておりますので、今年度の地連活動に活かしていただければ幸いです。



イタイタイ病資料館での集合写真



挨拶する林副館長



挨拶する山本委員長
(デンカ労働組合)



説明する一越氏
(信越化学労働組合)



館内見学の様子



説明する阿波氏
(日本板硝子労働組合)



説明する加藤氏
(丸善石油化学労働組合)



閉会挨拶する伊澤委員長
(住友バークライト労働組合)



語り部柞山さんの説明の様子



分科会の様子

日 時	2025年10月23日(木)～24日(金)		
場 所	富山県民会館 702号室(富山県)		
施設見学	イタイタイ病資料館	参加人数	29名

【第11回対馬海岸清掃ボランティア】



清掃後の集合写真

2019年6月に訪問してから11回目となる対馬海岸清掃ボランティアを実施しました。今回も一般社団法人対馬CAPPAの協力を得て状況確認と清掃活動を行いました。

清掃前に上野代表理事らによる、海洋プラスチックの現状について説明をいただいた後、清掃活動を実施しました。対馬の海洋プラスチック問題は、潮流によって大陸より漂着するプラスチックゴミが美しい海岸線に堆積し、生態系

への影響を及ぼしています。地元の海洋生物にとっても深刻な問題であり、特に海鳥や魚類がプラスチックゴミによって健康を害し、命を落とす事例が増加しています。

特にプラスチック製品は自然環境にさらされると、発砲スチロールやペットボトル、ビニール袋などの大きなプラスチックゴミが、海に漂流・漂着し、時間の経過とともに紫外線や雨風の影響で粉々に砕けて小さくなります。こうして生じたプラスチック粒子は海中を漂い、回収が極めて困難です。さらに、分解されないため海洋中で増え続け、回収も難しいことから深刻な問題となっています。

今回の海岸清掃では、まずは大梶海岸にて対馬の海洋プラスチックゴミの多さを確認するための視察を行いました。廃プラスチックやペットボトルを中心としたあまりのゴミの多さに参加者は、話には聞いていたが実際目の前にして改めて驚いている様子でした。また、今回のボランティアは11月9日の小茂田浜神社大祭開催を控え、小茂田浜海岸周辺の清掃を行いました。例年と違って流木も含め清掃を行い、水分を含んだ流木に参加者は苦戦されていましたが、熱心に清掃活動に取り組んでいました。



上野代表理事による説明



大梶海岸の海洋プラスチックゴミ



足場がとても悪くゴミ収集が大変でした



協力してゴミを拾う参加者



今年も瓜生会長が参加されました



流木を清掃する内藤さん
(デンカ労働組合)

日 時 2025年11月5日(水)～6日(木)

場 所 対馬市大梶海岸、小茂田浜海岸周辺(長崎県)

参加人数 17名

【第111回 調査担当者会議】

初日に、高知共済会館にて今年度初の第111回調査担当者会議を開催しました。調査担当者会議に先立ち、内部運営委員会の大熊委員長（積水化学労働組合）からご挨拶を頂いた上で、参加者全員による自己紹介を行った後に、各単組の2025年秋季労使交渉に関する情報交換を行い、各社の交渉内容や取り組みについて活発な質疑応答が行われました。

その後は、2025年度中に行ったオプション調査2件、これからオプション調査を実施する1件に対して、発議労組の担当者より報告&依頼を行うとともに、よりよい制度構築に向けてディスカッションを行いました。



1日目会議の様子



ネットヨタ南国(株)見学の様子



従業員の方とのクロストークの様子



講話される結城先生

2日目には、高知市内にあるネットヨタ南国(株)を訪問し、施設見学を行いました。最初に、ショールームや整備工場など、実際に現場で働かれている環境を見学した後に、3グループに分かれた上で、3名の従業員の方とのクロストークを行い、モチベーション高く働く上での考え方や姿勢など、各単組に一つでも持ち帰って実践できることはないかと闊達な質疑応答が行われました。最後に、株式会社ビスタワークス研究所の結城先生から、「新時代の到来、職場に変革を起こす」との題名でネットヨタ南国での事例を交えながら、リーダーとして組織に変革を促していく上での考え方について講話を頂き、全員が深い感銘を受けた施設見学となりました。



ネットヨタ南国(株)での集合写真

日 時	2025年11月13日(木)～14日(金)	場 所	高知共済会館(高知県)
施設見学	ネットヨタ南国(株)	参加人数	20名

【第1回 書記長・事務局長会議】



1日目会議の様子

第1回書記長・事務局長会議はホテルグランヴィア岡山の会議室にて開催しました。初日は、森吉委員の開会挨拶の後、今回の会議では、まず「団体傷害保険の加入状況」をテーマに、外部活動における災害補償のあり方を情報交換しました。各単組の制度や保険料負担の工夫を共有し、補償範囲のばらつきや財源確保の課題が浮き彫りになりました。

続いて、「専従者・非専従者の人事評価と退任後の処遇」については、専従期間中の昇格や復職時の役職、組合活動の評価のあり方など、各社の事例をもとに議論が深まりました。組合活動を評価にどう反映させるか、法的リスクや公平性の観点からも慎重な検討が必要であることが確認されました。最後に内部運営委員会の大熊委員長に閉会の挨拶を頂きました。



閉会挨拶する大熊委員長



研究所見学の様子



山本准教授による講演の様子



講話される山本准教授

2日目には、岡山理科大学を訪問し、好適環境水研究所の施設見学を行いました。最初に50周年記念館の会議室にて山本俊政准教授に、この研究に至った経緯や好適環境水を使った養殖のメリット、現在の研究取り組みなどを講演して頂きました。その後、研究施設のある会場まで移動し、2グループに分かれて研究施設の見学をしたのちに質疑応答が行われました。最新の研究施設を見学でき、環境技術の進歩に触れる貴重な機会となりました。



岡山理科大学での集合写真

日 時	2025年11月19日(水)～20日(木)	場 所	ホテルグランヴィア岡山(岡山県)
施設見学	岡山理科大学 好適環境水研究所	参加人数	21名

【第56回労使懇談会】



出席者へ挨拶をする
栗田千葉工場長

今年度も加盟単組の会社人事部長クラスの皆さま、日本化学工業会・石油化学工業会の方々にご参加いただきました。

千葉工場では、安全管理・環境対応設備ならびにケミカルリサイクルプラントをご見学いただきました。冒頭、栗田工場長よりご挨拶を賜り、続いて化学総連瓜生会長から取り組みについてご説明申し上げました。さらに、川口副部長より工場概要をご説明いただいた後、工場内をご案内いただきました。



化学総連概要を説明する
瓜生会長

安全創生館では、同社が推進する安全文化の取り組みについて詳しくご紹介いただきました。同館は、危険予知能力の向上や安全意識の定着を目的とした最新の体験型研修施設であり、従業員一人ひとりが「安全はすべてに優先する」という理念を実践できる環境が整えられています。

ケミカルリサイクルについても、廃プラスチックを熱分解しモノマーに戻して再利用する技術をご紹介いただきました。市原市との共同プロジェクトは、資源循環型社会の構築に向けた重要な取り組みとして注目されており、プロジェクトの詳細や安全・環境への対応についてもご説明いただき、参加者にとって最新技術を学ぶ貴重な機会となりました。

工場見学後には、市原国府寮にもご案内いただきました。同施設は従業員の住環境を重視し、安心して働ける環境を提供するものであり、社員を大切にする同社の理念を強く感じることができました。

この場をお借りし、準備を進めていただいたデンカ労働組合千葉支部の皆さまに厚く御礼申し上げます。本懇談会は、各社人事部長と単組委員長が一堂に会し、労使の密な対話を実現する化学総連ならではの場であり、今後も継続してまいりたいと考えております。



デンカ株式会社 千葉工場前での集合写真



安全教育について説明する佐藤氏



巻き込む力は全力でも止められません



国府寮の見学風景

日 時	2025年11月27日（木）～28日（金）
場 所	デンカ株式会社 千葉工場
施設見学	デンカ株式会社 千葉工場、デンカいちほら国府台
参加人数	43名

【第52回支部役員研修会(東日本)／第53回支部役員研修会(西日本)】



講演する下田政策局長(第52回)



講演する島田講師(第52回)



笑顔でディスカッションする受講者(第52回)



笑顔でディスカッションする受講者(第52回)

昨年に引き続き、支部役員研修会を東日本・西日本の2会場で現地開催しました。

基調講演では、両会場共通で化学総連の下田政策局長より「雇用・労働環境の変遷と組合役員に求められる視座」について講演いただきました。日本型雇用の特徴と課題、ジョブ型との比較、キャリア自律の重要性、AI・副業の広がり、2026年労働基準法改正動向などを整理し、組合には外部環境の変化を踏まえた価値創造型への転換が求められることが示されました。

研修会後半では、東西それぞれテーマを分けて実践的研修を行いました。東日本ではj.union株式会社・島田浩二氏による「ユニオン・ファシリテーション」を実施し、演習を通じて職場討議を活性化させる質問技法や傾聴のポイントを学びました。

西日本では同社・加藤瞳氏を講師に迎えて「組合員との対話力向上セミナー」を開催し、会話から対話への転換やオープンクエスションの活用などをグループワークで確認しました。

参加者同士の意見交換も活発に行われ、研修を通じて支部・単組を超えた交流が深まりました。本研修で得た学びが、今後の組合活動および職場運営の質向上につながることを期待します。



講演する下田政策局長(第53回)



講演する加藤講師(第53回)



発表する白木さん
(JSR労働組合／第53回)



発表する長友さん
(カネカ労働組合／第53回)



第52回支部役員研修会 結束の証



第53回支部役員研修会 西日本の絆

日 時	2025年12月5日(金)
場 所	AP東京八重洲
参加人数	40名

日 時	2025年12月19日(金)
場 所	大阪コロナホテル
参加人数	43名

年末社会福祉カンパポスター受賞者発表

化学総連は昭和53年より全国組織を活かした大きな枠組みでのカンパ活動を展開しており、年末社会福祉カンパポスターを毎年募集し最優秀作品を加盟単組へ配布のうえカンパ活動を実施しております。今年度は14単組より33作品を応募いただき、加盟全単組で審査した結果、最優秀賞に丸善石油化学労働組合四日市支部の山中佑哉さんの作品が選ばれました。たくさんのご応募をいただきありがとうございました！

最優秀作品

丸善石油化学労働組合
山中 佑哉さん



👑 最優秀作品に選ばれた丸善石油化学労働組合 山中 佑哉さんからのコメント 👑

まさか自分の作品が最優秀賞を受賞できるとは思っておらず、大変光栄に感じています。ポスター制作にあたっては、見る人の心に残るような色使いや構成にこだわりました。現代社会において、「やさしさ」という言葉の価値は、ますます高まっているように感じています。このポスターをご覧になった方が、少しでもやさしい気持ちになっていただけることを願っています。そして、そのやさしさが広がり、より良い社会につながることを心から祈っています。



丸善石油化学労働組合
山中 佑哉さん

	労組名	支部名	名前(敬称略)
最優秀賞	丸善石油化学労働組合	四日市支部	山中 佑哉
優秀賞	UBE労働組合	宇部支部	木下 実花
優秀賞	三井化学労働組合	名古屋支部	濱田 拓実
優秀賞	AGC労働組合	鹿島支部	湯浅 大悟
優秀賞	ENEOSマテリアル労働組合	四日市支部	芝井 麻衣
優秀賞	三洋化成工業労働組合	本社支部	川又 彬葉
優秀賞	三洋化成工業労働組合	研究支部	中尾 拓人
優秀賞	JNC労働組合	水俣支部	前田 俊喜
佳作	JNC労働組合	戸畑支部	濱崎 遼大
佳作	日本ゼオン労働組合	中研支部	山本 哲大 川村 美空 駒場 京花 小林 彩乃 松井 直樹

	労組名	支部名	名前(敬称略)
佳作	ダイセル労働組合	大竹支部	平川 大希
佳作	日本ゼオン労働組合	氷見二上支部	與田 明花里
佳作	JNC労働組合	水俣支部	高村 凌成
佳作	日本ゼオン労働組合	本社支部	大平 実桜
佳作	信越化学労働組合	鹿島支部	大木 直哉
佳作	カネカ労働組合	滋賀支部	三浦 明莉
佳作	デンカ労働組合	渋川支部	坂牧 空
佳作	日本板硝子労働組合	京都支部	中吉 賢一



ご応募
ありがとうございました！